

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891100089		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家仁川		
所在地	兵庫県宝塚市鹿塩2-13-19		
自己評価作成日	平成24年9月17日	評価結果市町村受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14		
訪問調査日	平成24年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内に小さい庭があり花、植物、野菜を利用者とともに育てています。、食事に関しても施設内の食事だけでなく時々、外食も楽しんでおります。また、季節を感じる事ができる行事も盛んに行っております。日々の利用者に対する援助でも自立支援に配慮した援助を行っております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①地域との交流・地域の中での事業所のあり方を課題として捉え、運営推進会議等で頂く地域の方々からの情報を積極的に活用している。様々な行事へ参加(餅つき、とんど焼き、夏祭り、こども神輿等)し、また、地域ボランティアの協力(敬老会、傾聴、外出、書道等)も受けている。また、事業所近くのコミュニティーセンターでの楽しい時間を過ごすことも日常となっている。②人財育成及び労務管理・法人本部主催の研修制度(新入職員・現任職員及び職務内容別の研修)及び事業所内での研修等を実施し、職員の能力向上に積極的に取り組んでいる。また、職員のストレスマネジメントに留意した研修体制も整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示している。買い物、外出、地域のイベントにも参加し地域との繋がりを積極的に持とうとしている。	「安心・安全・健康・楽しい生活」を柱に『真心のこもったサービス』の実践に職員一同取り組んでいる。地域の中でのホームのあり方についても職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩などをよくしたり、町内会から行事の案内についての情報をもらい、積極的に参加している。	散歩時の近隣の方々との挨拶や会話、地域行事(餅つき、とんど焼き、夏祭り、子ども神輿等)への参加や地域ボランティア(傾聴、書道、外出等)の協力も仰いでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議に参加してもらい、施設の認知症の利用者に対する介護の仕方や生活の様子を紹介し、理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、施設での利用者に対する介護の仕方や活動内容を紹介し、会の参加者からの助言や要望を聞き、施設でのサービスの向上のために生かしている。	運営推進会議では、様々な意見等を受け風通しのよい事業所運営が見てとれる。地域行事等の情報や参加促進、市職員よりの助言等サービス向上に反映できるヒントを多くもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事業者協会に参加を通じて情報を頂いたり、意見交換に努めている。	市主催の介護保険事業者協会(年3・4回開催)に参加し、情報交換や課題の検討を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い理解を深めている。安全面を考慮し、やむを得ない場合など、事前に了解を得て対応しています。玄関には、施錠は、なくオープンな環境をつくっています。	研修により身体的拘束等の弊害を職員で共有し、「安全性優先での拘束等ありき」ではなく、入居者不具合の根本を検討し、普通の生活が営めるよう取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、利用者の人権と尊厳を守るように努めています。	高齢者虐待に繋がる「不適切なケア」について、会議等により再確認しあっている。職員のメンタルヘルスについては、管理者・リーダーが職員との関係性を意識したコミュニケーションを図っている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行っており、今後、職員が活かせるようにしている。	制度活用されている入居者が2名おられる。職員は、法人本部主催の研修や事業所内研修により制度の概要は理解している。これからは、他の入居者への支援方策として実践できるよう取組む事を課題と捉えている。	地域包括支援センターの職員に協力を仰ぎ、様々な具体的事例等の情報を入手し、活用支援のための精度を高められてはどうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、運営方針、金銭面等、十分に説明を行い納得して頂けるように努めている。また、誤った理解がないように必要に応じて何度も説明を行っている。	契約前に見学等を踏まえて十分な理解と不安を払拭した状態で入居いただけるよう取り組んでいる。様々な側面での情報発信のため、管理者・計画作成担当者・リーダーによる面談を実施している。	家族からよくある質問等をまとめ、今後の契約や職員教育に活かせる取り組みにも期待をします。(Q&Aの作成等)
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様に出席して頂き意見、要望を出して頂いています。	家族よりの意見等は、来訪時に直接いただく場合や運営推進会議での意見が多い。現在、別のアンテナとして家族ミーティング等の開催を検討している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、1ヶ月に1回会議を開き意見を聞く機会を持っている。意見、要望が言える環境にし反映させるようにしている。	フロア会議(月1回)を職員より意見等を吸い上げる機会としても活用し、挙げた意見等に対しては必ず回答しており、なし崩し状態になる事は避けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員皆が意欲を持って働けるように「誰伸び制度」を導入して人事考課を行っている。シフト制ではありますが皆が有給休暇取得に向けて協力し精神面、リフレッシュできるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修や定期的に様々なキャリアアップのための研修があり勤務調整して研修に参加できるような体制を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事業者協会に参加をして交流を図り、他社主催の研修にも参加をして交流、サービス向上に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望についてアセスメントを行い、家族様から意見を頂き職員間で情報を共有している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接、契約時などに家族様から要望を聞き、以後も相談を受けやすい環境をつくるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様に不安、要望を聞き利用者の現状に合った介護ができるか判断します。今、必要としている支援を見極めるように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者であり家族であるという思いを持ち日々の利用者の尊厳を尊重し、本人らしい生活を送ってもらえるようにしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも連絡、協力を図り、連研し、互いに向き合い共感できる関係を築くように努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、利用者の家族、親戚、知人、友人等が訪問しやすい環境を作っている。近所にも買い物等に一緒にかけています。	今までの馴染みの商店に買い物に行ったり、知人・友人とも頻度高く過ごせるよう支援している。また、家族と共に外泊する機会も意図的に設計している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを大切にし、利用者間の関係、様子などを常に観察し、利用者が仲良く楽しく暮らせるように配慮している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもいつでも相談依頼を受ける旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、家族の生活歴や希望を聞き取りを行い本人の希望に沿った支援をしています。	入居時の基本情報に加え、日常の言動(言葉、仕草、表情等)より本人の思いや意向を汲み取り、それらを申し送りやカンファレンスで共有し支援している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や現状を聞き馴染みの暮らしができるように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活の様子、身心の状況を把握するように努め、介護記録や連絡帳等の記載をしっかりと行うようにしています。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状況の変化に合わせて、スタッフ間で話し合いを持ち介護計画を作成している。	介護計画は、本人の思い・意向に家族や職員の意見を踏まえ、計画作成担当者単独の偏ったものにならないよう図っている。現行介護計画と入居者の現況との整合チェックは、計画作成担当者が行っている。	現行介護計画と入居者の現況との整合チェックを居室担当者と共に行い、より精度の高い介護計画となるよう取組まれては如何でしょうか。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録と連絡ノート等を活用し申し送り時に口頭でも伝えています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の現状を把握した上で本人に合ったサービスを提供しています。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を通じて地域の方とも交流を深め情報を頂き、地域の行事等にも積極的に参加している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、家族様に提携医の説明をして承を頂き、月2回の往診を受けている。緊急時等は電話連絡で指示をお願いしている。必要時には、紹介状を頂き他の医療機関への受診をしている。	協力医(内科)による月2回の往診を受けている。24hオンコール体制を敷いており、緊急時にも適切な判断を仰いでいる。歯科・リハビリ等の訪問も受けている。受診が必要な場合には家族と協働している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携を図り日々の身心の状況の変化様子を伝え健康管理をしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に利用者に面会に行き、様子を伺い、家族、医師の説明を聞き、退院後の生活がスムーズにいくように努めている。	入院時には、早期退院を前提に管理者・計画作成担当者が病院の関係者と連携を密に情報共有している。面会も頻度をあげ、退院後の生活がスムーズに行くよう退院前カンファレンスに参加している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末希望、説明を行っている。病状の変化に応じ、家族、提携医で話し合いを持ち、家族や本人の意向を大切にしています。	重度化・終末期への対応方針を入居時に説明し理解いただいている。事業所でできる事、難しい事を明確にし、医師等の協力を受けながら本人・家族等の意向にそうよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルがあり事務所に掲示しています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施しています。	年2回(日中帯、夜間帯想定)の訓練を消防署立会の下、行っている。地域との協力体制も町会長と話し合っている。	地域ぐるみの災害対策についての協働に期待をします。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修等で入居者の尊厳を尊重し、プライドを傷つけないような接遇をしている。	個人の尊厳と自尊心・羞恥心を護る事並びに認知症高齢者への理解を総合的に把握し、「その人らしい」日常となるよう取組むための研修を実施している。		
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が話をしやすい環境作りに努めている。職員だけできめるのではなく利用者様が自己決定できるようにしています。			
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活のリズムに合わせてやりたいことを聞きできるだけ添うようにしている。			
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を定期的にご利用し整容に努めている。外出時には、服装、みだしなみ、化粧等をし、自分らしく過ごせるように援助しています。			
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で調理の手伝いやおかずの盛り付け、食器の後かたづけ等を職員と利用者とともにを行っています。	調理、盛付け、配膳・下膳等入居者各々の得意とするところを職員と一緒に取組んでいる。外食(ファミレスや喫茶店での昼食)、イベント食(バイキング、鍋パーティー)も楽しみ事となっている。		
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い把握をしている。食事形態も各個人の状況に合わせて提供している。			
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の口腔の状態に合わせて口腔ケアを行っている。週1回訪問歯科医の診療を受けている。			

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、排泄チェック表で排泄状況、間隔を把握し、トイレ誘導をし、おむつの装着も各個人の状況に合ったやり方をしている。	入居者個々人の排泄のパターンやそのサイン(仕草や表情等)を把握・共有し、トイレ排泄の介助を行っている。おむつの方には、違和感のないあて方で安心してもらえるよう支援している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で把握し、食事、散歩、水分補給を心がけているそれでも円滑な排便がない時は、提携医の指示のもと下剤を使用している。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	固定曜日でなく本人の状況、希望に合わせて入浴を行っている。入浴前に血圧、体温、表情などを観察し体調確認に努めている。	週2・3回の入浴を基本(曜日は固定していない)とし、入浴剤等を用い入浴を楽しめるよう取り組んでいる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の清掃、整理整頓に努め、利用者様が気分よく休めるように支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携医、薬局と連携を図り、薬に関する情報をもらい、薬手帳、処方せんを各個人でファイルにとじて内容把握しています。服薬時には、スタッフ間でダブルチェックしています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活の身心の状況に合わせてできるだけできることはやってみようとしている。また、個人の嗜好に合わせた毎日を楽しんで過ごせるような援助をしている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や、体調に合わせて散歩、買い物など外出をします。庭の水やりをもらったり、近くに外食などにも行っています。	日常的な散歩や買い物、敷地内菜園での外気浴や花づくり等屋外に出る機会を多く設けている。地域行事への積極的参加や季節イベントでの外出(餅つき、とんど焼き等)も楽しんでおられる。	個々の利用者により「外出支援の目的」も様々と考えられます。今後も、利用者の思いに沿った支援の継続を願います。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何名様かは、家族様の了承の上財布を持たれ買い物時に支払われています。預かり施設管理している方もレジで清算できるよう支援しています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人から手紙や年賀状が届く方は入居者様に渡すようにしている。年賀状は書いてもらっています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、利用者の共有の空間については、清掃を行い、清潔保持に努めている。また、季節感が感じられるような雰囲気作りに努めています。	リビングは明るく、日差しが心地よく、ソファでの談話やフロアからベランダへ出たの外気浴(1F)も楽しめる。フロア・廊下には、季節の飾りや入居者の作品が掲示されている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、利用者どおしが団らんできるようにしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、馴染みの衣類、家具、写真や小物類などをもってきてもらい、自分らしい空間づくりができるように努めている。	家族と相談しながら、家具、TV、ベッド等本人の使い慣れた物を持ち込み、落ち着いた居室空間となるよう支援している。居室には洗面台が設置され衛生的であり、ADLに応じ介護用品等の支援も行っている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室前等に名前を表示して利用者が日常生活にとまどいを感じさせないように配慮している。		